

循環注水冷却

危険性を指摘

第2回原発対策会合

福島第1原発事故の対応を検討するため、超党派の国会議員でつくる「原発対策国民会議」は18日、国会内で第2回会合を開き、東京電力が17日に見直しを発表した工程表などを議論。専門家は、新たに盛り込まれた原子

炉冷却方法の危険性を指摘した。

工程表には、原子炉建屋などにたまった汚染水を浄化した後、原子炉に入れて再利用する「循環注水冷却」方式の導入を明記。6月中旬にも始めるとしている。

日本原子力技術協会の石川迪夫最高顧問は「(被ばくすれば)人

が死ぬ恐れがある」と問題視。海水注入で大量の塩が炉心に混在し、作業に影響を与え、可能性にも言及した。

「格納容器の内部を十分に把握できていないのが現状。推測で汚染水による循環冷却に臨むのは危険だ」と強調した。

事故の再発防止に向けては、電源喪失に備え外部電源を広域的に

確保するよう提案。「日本海側と太平洋側を結ぶ規模の外部電源があつていい」と述べた。

会合には連絡幹事を務める村上誠一郎(自民党、衆院愛媛2区)、桜内文城(みんなの党、参院比例)の両氏ら議員約30人が出席した。

(和泉太)